

## 修士論文要旨

# 怒り喚起刺激に対する注意の変容に焦点を当てたアンガーマネジメント介入が児童生徒の怒り反応低減に及ぼす効果

## Effects of anger management in reducing anger response among school children: focusing on modification of attentional bias toward anger-inducing stimuli

田部井 三貴 (Miki Tabei) 指導：嶋田 洋徳

### 【問題と目的】

情動の誘発には、刺激の詳細な分析を経ずに行われる「自動的情報処理プロセス」と、複雑な評価の過程を経て行われる「統制的情報処理プロセス」の2経路が存在しているとされている (LeDoux, 1987)。怒りの低減効果が認められているAnger Control Trainingをはじめとする従来の認知行動的介入は (Eyberg et al., 2008), このうちの「統制的情報処理プロセス」に対する介入に位置づくと考えられるため、「自動的情報処理プロセス」によって誘発された「衝動的な」怒りに対しては、その効果が不十分である可能性が考えられる。

「自動的情報処理プロセス」に該当すると考えられる、怒りを予測する要因の1つとして、注意バイアスがある。van Honk et al. (2001) は、特性怒りが高い者に特異的に見られる注意バイアスとして、怒り喚起刺激である脅威表情に対して注意を向けやすいことを示している。注意バイアスの高さによって、怒りを喚起するような刺激が多く入力、処理され、結果的に「衝動的な」怒りが表出されやすくなることが考えられるため、注意バイアスに対する介入を行うことが、「衝動的な」怒りの低減に有効である可能性がある。そこで本研究では、注意バイアス修正訓練を行うことで、標準的な怒りに対する介入である「認知行動的なアンガーマネジメント」の怒り感情低減効果を促進させるかどうかを検討することを目的とした。

### 【方 法】

**研究参加者** 首都圏近郊の公立小中学校に在籍する4～6年生の児童231名、1年生の生徒190名。

**測度** (a) 怒り感情：子ども用怒り感情尺度 (野口他, 2006), (b) ストレス反応：児童用メンタルヘルス・チェックリスト簡易版 (岡安他, 1998), 中学生用メンタルヘルス・チェックリスト簡易版 (岡安・高山, 1999) (c) 学校肯定感, 学校回避感：学校肯定感回避感尺度 (大対・松見, 2010) (d) 注意バイアスの程度：複数の怒り顔と5個の笑顔を記載したワークシートを作成し、20秒間で見つけれられた笑顔の数を注意得点とした。

### 【結果と考察】

注意バイアス修正訓練を加えたアンガーマネジメントの効果を検討するために、小学生、中学生ごとに、介入の群

2 (標準群, 注意訓練群) と時期3 (pre, post, follow-up) を独立変数, 怒り感情得点を従属変数とする2要因共分散分析を行った。その結果, 小学生においては, 時期の主効果のみが有意であった ( $p < .05$ ; Figure)。一方で, 中学生においては, 交互作用, 主効果ともに有意でなかった。このことから, 中学生では, 両介入群において, 怒り感情の低減効果がみられなかった。この理由として, 本研究では自身の行動に対する他者からの反応がともなう友人関係ストレスを想定して介入を行なったが, 年齢とともに学業ストレスなど他のできごとが情動に及ぼす影響性が強まるため, 中学生において相対的に介入効果が弱まってしまった可能性がある。

さらに, 注意バイアス修正訓練による注意バイアスの変化が, 怒り感情の低減に影響を及ぼすかどうかを検討するために, 注意訓練群において, 注意得点のpreからpostにかけての変化量と, 怒り感情の変化量の相関分析を行ったところ, 小学生においては, 有意な負の相関が認められたが ( $r = -.29, p < .01$ ), 中学生においては, 十分な大きさの相関係数は得られなかった ( $r = -.09, n.s.$ )。このことから, 小学生は怒り感情の誘発において, 刺激に対する「自動的情報処理プロセス」の関与が強いために, 注意バイアスの改善によって怒り感情が低減する一方で, 中学生においては, 認知発達によって「統制的情報処理プロセス」による処理が強まった結果, 注意バイアスの改善による怒り感情の低減効果が弱まる可能性が考えられる。しかしながら, 小学生においても, 注意バイアス修正訓練を加えたことによる怒り感情の有意な改善促進効果は示されなかった。

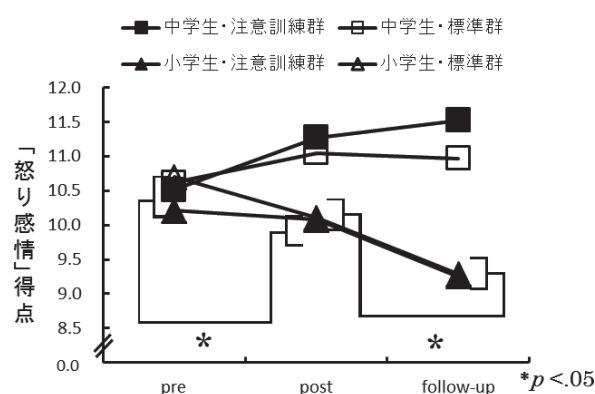


Figure 介入による怒り感情の変化